

## 座談会『慶應連合三田会大会の 新たな姿を目指して』

茂木修 2020年 慶應連合三田会大会 実行本部長 × 野間省伸 2021年 慶應連合三田会大会 実行本部長

第1回 10月30日(金)

### 「幻の大会で目指したもの」

2020年は、東京でオリンピック・パラリンピックが開催される記念すべき年であり、また、慶應義塾としては新しい日吉記念館のお披露目も予定されていました。

そのような中、2020年慶應連合三田会大会の10月18日の開催に向けて1000人を超えるスタッフが準備を進めていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、中止という苦渋の決断に至りました。

幻の大会となってしまった2020年連合三田会大会は、どのような大会だったのでしょうか。2020年大会より茂木修実行本部長、2021年大会より野間省伸実行本部長を迎えて行われた対談の様子をお届けします。



#### 2020年大会に向けて3年前から実行本部が始動

野間実行本部長(以下敬称略) 大会が中止になってしまったことは、本当にショックでした。実行本部でも、我々の代の大会はどうなるのかと混乱がありました。

茂木実行本部長(以下敬称略) 私もとても寂しい気持ちと、大きなプレッシャーが急に消えて、力が抜けてしまったような気持ちです。

野間 2020年大会に向けていつ頃から準備を始められていたのでしょうか。

茂木 2017年の連合三田会大会が終わった秋頃から、中核のメンバーが集まって始動しました。その後主要メンバーが決定し、2018年12月に最初の実行本部の会議があり、2019年2月の全体会議でコンセプトを決定しました。



#### 社中の絆の再発見を目指したスローガン「また出会えば、また始まる。」

野間 「また出会えば、また始まる。HELLO KEIO, HELLO AGAIN!」というスローガンにはどのような意味が込められているのでしょうか。

茂木 再び出会えば、新たな発見が生まれ、きっとまた何かが始まるはず、という想いを込めています。日吉の新記念館が伝統の上に新しい歴史を刻み始めるように、私たちが懐かしい仲間と久々に会えば、また何か始まる。そんな期待が込められています。大会の開催を通して、塾員、塾生、教職員、保護者の方々を含む慶應義塾社中の絆を再発見し、一人一人の中に、慶應義塾への新たな想いが芽生える機会となってほしいと考えていました。

#### サステナビリティを今後の大会にも繋げていきたい

野間 環境問題にも配慮した大会を目指していたそうですね。

茂木 2020年大会の担当者のみなさんから「塾員(卒業生)のリユニオンにとどまることなく、新たな価値を発信する大会にしたい」という提案がありました。それならば、我々の代からスタートして、何か今後に繋いでいけるような流れを作っていこうと「サステナビリティ」をテーマに、環境問題に配慮した大会にしていこうと、環境委員会も設置しました。具体的には、フードロス、ペーパーレス、脱プラスチックなどに取り組むつもりでした。

野間 一回の大会で、できることには時間的にも予算的にも限りがあります。だからこそ「サステナビリティ」や今後の大会のデジタル化についても、先輩から引き継いで自分たちが進化させて、それをまた次に繋いでいくことを考えていました。2020年大会は残念ながら中止となってしまいましたが、2021年大会も、次に引き継いでもらえるようなものをつくり上げたいと思っています。



#### 日吉の新記念館に響き渡るはずだったカレッジソング

野間 日吉の新記念館の竣工も2020年の大きな目玉だったのでは。

茂木 新記念館を最大限に活用し「卒業式をやった記念館、新しく綺麗になったらいいよ」というフレーズを合言葉に、この機会に多くの方々に日吉に集まってもらいたいと思っていました。日吉に通ったことのない学部の方々にもどうアプローチしたら、足を運んでくれるだろうと考えていました。

野間 日吉の新記念館は、収容人数が飛躍的に拡大し、1万人を収容できる大きな会場だそうです。新記念館ではどのようなイベントが開催される予定だったのですか。

茂木 メインイベントは「新しい記念館誕生の喜びを、塾員来場者と一緒に共有し楽しめる演目・出演者」というコンセプトで進めていました。慶應義塾が誇る、1901年創立の日本最古のアマチュア学生音楽団体、ワグネルソサエティオーケストラを中心に「昭和・平成・令和の時代を越えて輝き続ける思い出と音楽たち」というテーマで祝祭感を創出するトーク&シングショーを企画していました。それぞれの時代を飾った曲や、応援歌などのカレッジソングが新記念館に響き渡るはずでした。また、イベントだけでなく、大会開会セレモニーも新記念館で行われる予定でした。開会セレモニーもイベントも、今年はすてがたった一度しかない「最初」という記念すべきものになるはずでした。最初にこの場所で流れる音楽、最初に交わされるトーク、最初に行われるパフォーマンスに大きな意味があると考えていました。

野間 聞けば聞くほどに開催されなかったことが残念でなりませんが、これまでの2020年大会の実行委員のみなさんのご尽力に深く感謝いたします。

次回は「衝撃の“中止決定”」というテーマで、大会中止に至った経緯とその反響などについてお届けします。